

新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について

新型コロナウイルス感染症の対策や治療にあたる医療関係者、社会機能が止まらないように働く労働者、感染者や回復者、これらの方々の家族等の尊厳を傷付ける行為について多くの報道がなされています。このような偏見や差別につながる行為は断じて許されないものです。また、これらの人たちが通学する学校、勤務する職場等に対する誹謗・中傷もあってはなりません。

これまで、ハンセン病問題やHIV感染者への偏見・差別、さらには福島第一原子力発電所事故により避難した児童生徒へのいじめなど、正しい知識や理解の不足、根拠のない思い込み等により、人々の人権が侵害されてしまう事象が繰り返されてきました。

新型コロナウイルス感染症の問題に直面している今こそ、自分の人権も他の人々の人権も大切に作る行動について一人一人が考え、実践しましょう。

偏見や差別による感染症拡大のメカニズム

偏見や差別が広がると、自分自身の感染を疑った人がそれを隠すようになり、結果として感染症の拡大につながる。

新型
コロナウイルス
感染症

未知のウイルスで、ワクチンも開発されていないため、不安な気持ちになる。さらにうわさ話やSNSの情報等によって不安が大きくなる。

偏見
差別

不安

不安が怖れとなり思考力や判断力が弱まる。ウイルスを遠ざけたいという気持ちから、特定の人たちに「危険」というレッテルを貼り、責めたり排除したりすることで安心感を得ようとする。

問題解決のために、わたしたちに何ができるでしょうか。

自他の人権を守る行動が感染症拡大防止にもつながります。

➤ 不安な気持ちに向き合いましょう。

新型コロナウイルス感染症は、他の感染症に比べて分からないことが多く、誰もが不安な気持ちになります。さらに、メディア等から得た情報によって、その不安が具体性をもって大きくなったり、恐怖に変化したりすることもあります。

まずは、一息ついて今の状況を整理し、自分の気持ちや態度を振り返ってみましょう。情報収集する時間を短くし、自分がりラックスできると思うものに触れ、不安をコントロールしましょう。また、信頼できる大人に自分の気持ちを聴いてもらうことも大切です。

➤ 偏見や差別につながる行為は絶対にやめましょう。

新型コロナウイルス感染症は、無症状の人もいることから、どこで、誰から感染したか分からない場合も多く、誰でもかかる可能性があります。感染した本人を責めることはできません。

特定の人たちを科学的根拠もなく責めたり排除したりすることは偏見や差別につながります。絶対にやめましょう。

うわさや根拠のない思い込みでなく、公的機関等の信頼できる情報をもとに行動することが重要です。また、感染者やその家族、医療関係者等の状況や思いを自分のこととして考えることも大切です。

➤ インターネット上の情報に注意して、情報を発信する行為に責任を持ちましょう。

インターネット上には不確かな情報が数多くあります。そのような情報やうわさ話を信じてまわりの人に言いふらしたり、SNSで発信・拡散したりする行為は、プライバシーの侵害、誹謗・中傷等、人権を侵害することにつながりかねません。

情報を発信する自分の行為に責任を持ちましょう。

監修：中央大学人文科学研究所客員研究員 高橋聡美（「心と命のサポート事業」講師）